

(様式)

令和2年度東大阪市地域研究助成金事業の研究成果の今後の活用について

研究テーマ	ウィルチェアスポーツの実施により期待される生理・心理的効果と参加の動機付けについての検討
担当部署	都市魅力産業スポーツ部スポーツビジネス戦略課

研究の希望理由	市では、ウィルチェアスポーツを通じたまちづくりを推進している。また、他の多様な行政分野においてもスポーツの活用を目指しており、特に市内のモノづくり産業の活性化の創出を重要な課題として位置付けている。本研究については、ウィルチェアスポーツを活用したモノづくり産業の活性化策の検討にあたり、競技人口の増加に向けた普及育成施策の検討に研究成果を活用したい。
研究内容	ウィルチェアスポーツの種目の一つである車椅子ソフトボールを対象に、その活動実施の効果について検討を行う事とする。具体的には、実施時の心拍数変動の測定による運動強度やエネルギー消費、気分の高揚や爽快感といった一過性（状態）の測定評価を行う。さらに、その結果をもとに筋力や持久力、自尊感情やQOLの向上・獲得といった継続的な実施による効果についても検討する。あわせて現在車椅子ソフトボール活動の参加に至った経緯及び動機づけについても調査し、健常者も含め車椅子ソフトボールの推進・奨励のための基礎的資料の獲得を目的とする。
研究成果	車椅子ソフトボールは、障害の程度で守備ポジションが選択されることや、クラス分けによる合計ポイントでチーム編成できるなど、健常者も含め老若男女問わず楽しめるスポーツである。また、障害の程度に応じた運動強度で参加できる種目であり、バスケットボール・テニス・ラグビーなど他の車椅子球技種目と比べ運動強度が低く、車椅子スポーツの入門的な種目として推奨できるものと判断できる。 参加動機に関しては、障害者は知人からの紹介が多く、健常者は大学での活動の一環というきっかけが多かった。活動をサポートする健常者でも競技者として参加でき、「する」「ささえる」の両面から参画が可能である。参加者には理学療法を学ぶ学生も多く、「する」「ささえる」に「まなぶ」を加えた活動としての参画推進が期待できる。単発的な参加についても、車椅子に乗れば一緒の条件から健常者にとって「する」ことと、少しの手助けでの「ささえる」経験は、共生社会の醸成に向けて、様々な対象者の「学習」「研修」の1コンテンツに成り得るものと考えられる。

(様式)

<p>研究成果の 今後の活用</p>	<p>車椅子ソフトボールがウィルチェアスポーツの入門的な種目として推奨できるという結果から、体験会の中の一つのコンテンツとしての活用や大会を実施することによりウィルチェアスポーツの推進を図っていきたい。</p> <p>また、ウィルチェアスポーツには「する」「ささえる」という両面からの参画が可能であり、学習や研修のコンテンツになり得るとの研究結果から、理学療法を学ぶ学校等と連携したイベントや出前講座の実施などを通じ、学びの機会の提供ウィルチェアスポーツを活用した共生社会の醸成を図って参りたい。</p>
------------------------	--